

【美術博物館】山口県周南市花島町10-16 (0834-22-8880) <http://s-bunka.jp/bihaku/>【郷土美術資料館・尾崎正章記念館】山口県周南市富田永源 (TOSOH PARK 永源山内) (0834-62-3119) <http://s-bunka.jp/kyoubi/>

谷川俊太郎 絵本★百貨展

9月27日(金)～11月24日(日) 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
月曜休館

観覧料

■一般 1,300円(1,100円) ■大学生 1,000円(800円) ()内は前売および20名以上の団体

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料

18歳以下
無料

会員ご招待

財団会員には、本号発送の際に展覧会の招待券をお送りします。(家族会員は一家族につき2枚)



撮影:田附勝

詩人谷川俊太郎(1931～)は、21歳のときに第一詩集『二十億光年の孤独』を出版。「月火水木金土日の歌」で第4回日本レコード大賞を、『マザー・グースのうた』で日本翻訳文化賞のほか、萩原朔太郎賞、鮎川信夫賞など数多くの賞を受賞。詩作のほかにも絵本、エッセイ、翻訳、脚本、作詞など幅広く作品を発表しています。

みなさんよくご存知のテレビアニメ「鉄腕アトム」の主題歌や「スヌーピー」(原題「PEANUTS」)の翻訳なども手がけています。

自身の子どもの頃の絵本の思い出については、「僕は絵本っていうと写真入り、挿絵入りの百貨事典と世界美術全集ってのが浮かんじやうんですよ。そのほうがはるかに子どもである自分に深い影響を与えたって感じがすごくあるのね。」(「MOE」1989年2月号)と語っています。

絵本をつくることを意識するようになったきっかけは、レオ・レオニの絵本『あおくとときいろちゃん』だったそうです。

谷川にとって「絵本をつくる上で、もっとも大切なことは、コンセプト(発想)。「そのコンセプトをイメージと言語の双方によって、いかに紙面に実現するか」。谷川によれば、「コンセプト」とは「物の見かた」であり、「見かた、とらえかたの新鮮さ、面白さによって、絵本はまず芸術の一形態だろうと思える」(「絵本と私」朝日新聞1974年3月11日)と書いています。

谷川は、1960年代から現在にいたるまで、画家や写真家とコラボレーションして200冊にも及ぶ絵本を手掛けてきました。今回の展覧会では、その中から約20作品を紹介します。

科学の絵本。オノマトペ(擬音)、しりとり、つみあげうたといった、ことばあそびの絵本。死を見つめる絵本。戦争を伝える絵本。などなどジャンルも様々です。

展覧会では原画だけでなく、谷川の絵本から着想を得た8人のクリエーターたちが制作した映像や立体作品も展示します。



東京会場 展示風景(撮影:高橋マナミ)

『おならうた』(絵・飯野和好)
2006年 絵本館

こちらは「おならドーム」。中に入ると飯野和好による『おならうた』の原画が展示されています。絵本のページをめくるたびに、「ぶ」「ぼ」「へ」など、いろいろな音のおならが…。その世界観がドームとして表現されています。

『えをかく』では、谷川の詩にあわせて長新太が絵を描きました。その絵を絵巻のように大きく引き伸ばして展示しているコーナーでは、朗読する谷川の声の流れ、目と耳で絵本の世界を味わうことができます。

展覧会のタイトルどおり、デパート(百貨店)のように幅広く多彩な絵本を味わうことができます。

ぜひこの機会に、谷川俊太郎の「物の見かた」を体感してみてください。新たな発見があるかもしれません。

(学芸員 松本久美子)



東京会場 展示風景(撮影:高橋マナミ)

【トピックス】周南と谷川さんとのご縁

1992年に文化会館の開館10周年記念事業として開催した「まど・みちお こどものうたフェスティバル」。その第1部シンポジウム「まど・みちおの世界」にパネリストの1人としてお越しいただいています。



向かって左から3人目が谷川さん

また、美術博物館では、2021年に、画家・猪熊弦一郎を紹介する展覧会を開催しました。この展覧会は谷川さんが手がけた絵本『いのくまさん』にちなみのもので、猪熊の作品とともに、谷川さんのシンプルでリズムカルなことばもあわせて展示しました。



← イベントやグッズの紹介は次のページへ

美術博物館ホームページはこちら



谷川俊太郎 絵本★百貨展

関連イベント

◆講演会① 要事前申し込み

「谷川俊太郎と僕」

10月26日(土)14:00~15:00

講師/木下龍也氏(歌人)

1988年周南市生まれ。歌集は『つむじ風、ここにあり』『きみを嫌いな奴はクズだよ』(ともに書肆侃侃房)『あなたのための短歌集』『オールアラウンドユー』(ともにナナロク社)。その他、短歌の入門書や谷川俊太郎との共著など著書多数。

会場/周南市美術博物館 講座室

定員/50名(先着順)



◆講演会② 要事前申し込み

「ひとりでいた時間」

11月16日(土)14:00~15:00

講師/市河紀子氏(編集者)

谷川俊太郎とも、周南市出身のまど・みちおとも一緒に仕事をされた編集者から見た、二人の詩人についてお話いただきます。

会場/周南市美術博物館 講座室

定員/50名(先着順)

申し込み方法

講演会①②は、電話で美術博物館(0834-22-8880)までお申し込みください。
※聴講無料。ただし企画展観覧券(半券でも可)が必要です。

◆学芸員によるギャラリートーク 申し込み不要

9月28日(土)、10月13日(日)いずれも14:00~ ※企画展観覧券をお求めの上、展示室にお集まりください。

オリジナルグッズ



絵本★百貨展トートバッグ 3,520円

ここはおうち
ポストカード
各330円

詩のポストカード 各330円

(左)
Tシャツ こっぷ
4,400円(右)
Tシャツ 絵本
4,400円ぶくぶくシール
もこもこもこ
各880円トイレトペーパー 4種セット 1,100円
(単品 330円)

※表示価格はすべて税込です ※売り切れの際にはご了承ください

撮影:長谷川明

LAWSON

ローソンの
ソフト
クリーム

各205円(税込)

LAWSON
ローソン徳山動物園前店 0834
32-8363

※画像はイメージです。

美博クイズ~!〈128〉 もんだい

ガスのボンベがたくさん
並んでいるね。何をして
いるところだろう?



作品を守るために
美術博物館で定期的に行っていることだよ

周南市美術博物館
常設展示

- 常設展観覧料：一般200円(160円) 大学生等100円(80円) ()内は20名以上の団体
※18歳以下および70歳以上無料※企画展の観覧券で常設展もご覧いただけます
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日：月曜日※ただし、9/8~10は施設メンテナンスのため臨時休館。9/16・9/23開館、9/17・9/24休館。

展示室 4 林忠彦記念室

織田廣喜 10/31(木)まで

織田廣喜は、1914(大正3)年、福岡県に生まれ、18歳で上京、1939(昭和14)年に日本美術学校を卒業します。在学中より二科会に出品し、1950(昭和25)年に二科会会員となり、2006(平成18)年には理事長に就任しました。林忠彦は、1953(昭和28)年に二科会写真部を創立。1954(昭和29)年から30年以上織田を撮り続け、2年に1度、織田を撮った作品を二科展に出品しました。

織田は撮影について、「林さんは、撮影に来られると、半日くらい写真に没頭されました。真剣に、眼を見開き、絵を描く私の周辺を、あっちにいたり、こっちにいたり、少しも止まることなく、シャッターチャンスを狙い続けました。(中略)ある時は地面にひっくりかえり、ある時は屋根に登って、レンズを私に向けました。その間、何もいわず、黙々とカメラを向け続けるのです。しかし、うまく写真がとれたときは、私にも分かるのです。「オウツ」と喜びの声をあげるからです。」と回想しています。

写真を撮り終わると、林はすぐに道具やカメラを片付けて帰っていきました。いつも、1枚のデッサンを欲しいと言うこともなく、「いい絵を二科に出展して下さい」と言っていたそうです。

参考：『讃歌』1992年(発行 サン・アート)



「制作中の大作を見つめる織田(祖師ヶ谷)」



「よしずがけのアトリエで制作中」

林忠彦撮影

展示室 5 まど・みちおコーナー

今回の内容の展示は9/29(日)まで

「浮遊」というタイトルの作品ですが、一体何が浮いているのでしょうか。作品の下の余白部分には、鉛筆で「小さい岩たちのお祭 あそぶ岩」と書かれています。

まどさんの中では、浮いているというより、踊っているようなイメージだったのかもしれない。

左下のアルファベットのCのような形は、輪郭線に沿って多数の点が規則正しく並び、内側は青のボールペンでグルグルと円を描きながら塗りつぶされています。中央の黒の岩のような形には油性ペンでたて線がたくさん描かれています。右上のEのような形も内側をよく見るといろいろな線が描かれ、その重なりによって独特な色合いが表現されています。そこに輝く星のようなものも描かれ、なんだか宇宙のようにも見えてきます。

作品に近づいてまどさんの繊細な描き方にも注目してみてください。



「浮遊」制作年不詳
水彩、ボールペン、油性ペン、鉛筆・紙

徳山の歴史 特設コーナー

没後140年
徳山藩九代藩主 毛利元蕃
9/16(月・祝)まで展示中

展示室中央の展示ケース内には、元蕃ゆかりの品々を展示しています。

元蕃が刊行した詩歌集『省耕集』です。

徳山では1850年に未曾有の風水害があり、元蕃は領内の村々をまわって人々をなぐさめ、老人をいたわり、親孝行な者や農業に励む者をほめたりしました。

この『省耕集』には、領内を見てまわった際の詩文が収められています。元蕃の藩主としての姿をうかがい知ることができます。



9/18(水)~12/28(土) 「描かれた児玉源太郎」

ひばく 美博クイズ~! <128> こたえ

くん じょう 燻蒸だよ。

みつ べい しゅう そう こ とく しゅう い さく ひん
密閉した収蔵庫に特殊なガスを入れて、作品
いた むし たい じ さく ひん こう せい
を傷める虫やカビを退治するよ。作品を後世
つた たい じ さく ひん
に伝えるための大事な作業なんだ。

とうしんの スカイバンク **カーライフプラン** お借換え可能!

取扱期間:2024年4月1日(月)▶2025年3月31日(月)

※ご本人・同居家族の方で、カードローンまたは定期積金(掛込金額1万円以上)をご契約中の方、新規でご契約の方に限定

特別金利(保証料含む)	満額お取り引き条件にば	特別金利より最大-0.2%で
カーライフプラン 固定金利 年利 2.4%		カーライフプラン 年利 2.2%
カーライフプラン プライム 固定金利 年利 2.1%		カーライフプラン プライム 年利 1.9% となります

基準金利 年4.38%から1.98%お得になります

インターネットからの
仮審査申込みも可能です。

東山信用金庫
https://www.higashiyamaguchi-shinkin.co.jp/

ART and HISTORY インフォメーション

周南

周南市美術博物館 ☎0834-22-8880

宮西達也の世界
ミラクルワールド絵本展
～9/1(日)谷川俊太郎 絵本★百貨展
9/27(金)～11/24(日)

周南市郷土美術資料館 ☎0834-62-3119

空調工事等のため、
2025年1月10日まで休館

防府

毛利博物館 ☎0835-22-0001

企画展「毛利のおとのさま
—激動と波乱の長州藩14代—」
～9/2(月)山口県文化財指定記念 企画展
「武家のならわし—大内氏故実書の世界—」
9/13(金)～10/27(日)

山口

山口県立美術館 ☎083-925-7788

超絶技巧、未来へ!
明治工芸とそのDNA
9/12(木)～11/10(日)

萩

萩博物館 ☎0838-25-6447

萩博物館開館20周年記念特別展
「海の妖怪展」
～9/23(月・休)

長門

香月泰男美術館 ☎0837-43-2500

「没後50年 香月泰男展
第二期1955→1965」
～9/30(月)

下関

下関市立美術館 ☎083-245-4131

漫画家生活60周年記念
青池保子展 Contrail 航跡のかがやき
～10/14(月・祝)

下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080

下関戦争160年記念特別展
「攘夷と海峡」
～9/29(日)

～ TOSOH PARK 永源山の中にある美術館～

周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

※空調工事等のため、2025年1月10日まで休館



当館はふるさと周南市の画家、尾崎正章の作品を中心に、地元の作家の作品を紹介する施設として、1995年に開館しました。空調工事等のためしばらく休館となりご迷惑をおかけしております。この機会に尾崎正章の歩んだ足跡を当コーナーで紹介します。

尾崎正章の作品

6. 「静物を描く」

晩年、尾崎は花や果物、野菜や魚などの静物を数多く描きました。彼は静物画について「—最初は堅いものと柔らかいものの組み合わせです。例えば果物と陶器を組み合わせ、質感のちがいをどう出すか研究する。静物を『死物屋』と呼ぶ画家もいますが、私は静物は生きていると考える。腕の達者な人は写真のように描きますが、見える通りに描くのではなく、静物はみな生きている。書の人にも同じことが言える。ひとつの形があり、その中に何かを見つけなければならない。」※と語っています。ものの本質を見だし描こうとした尾崎の信念が伝わってきます。



「アネモネ」1970年 油彩・キャンバス



「静物」1988年 油彩・キャンバス



「赤絵の鉢のぶどう」1996年 油彩・キャンバス

※『尾崎正章展』図録 1990年(発行 新南陽市)P.6より

〈次回「尾崎の描いた身近なものたち」に続く〉

最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。 <http://s-bunka.jp/kyoubi/>伊藤若冲「老松白鳳図」
1766年頃
皇居三の丸尚蔵館収蔵

館も1000年先を見据えて、文化を未来に継承するという使命とともに、これからも真摯に作品や資料と向き合っていきたいと思えます。(今井)

ミニコラム
ガス燈

「千載具眼の徒を咲つ」これは江戸中期に活躍した絵師伊藤若冲(1716年～1800年)が残した言葉です。

「千年の時を経て自分の絵を理解する人が現れるだろう」と考えていた若冲。時を待たずして、没後200年の2000年に京都国立博物館で若冲展が開催され一躍脚光を浴びました。また生誕300年の2016年には東京都美術館で過去最大規模の回顧展があり、改めて若冲作品の素晴らしさが世に知れ渡るようになりました。

「人は死んでも、その人の影響は死ぬことはない」とキング牧師が言っているように、画家にとって作品を残すということは、自分がいなくなっても作品として永遠に生き続けることを意味しているのかもしれない。概して画家を生業とする人たちは、大きな時間軸の中で作品について考えているようです。美術博物館も1000年先を見据えて、文化を未来に継承するという使命とともに、これからも真摯に作品や資料と向き合っていきたいと思えます。(今井)